



瀬戸の沢を遡行し、尾根に出た。丹沢山を往復した後、本間ノ頭から丹沢観光センターへ下山する予定だった。太礼ノ頭を過ぎ、次のピークを本間ノ頭と「思い込み」下山したが、40分過ぎから様子が変わった。方向は間違っていないので沢を下れば、出合いの沢へ合流する？と思いさらに沢を下った。懸垂下降が必要な大きな滝が出てきたため、あきらめて引き返した。丹沢山小屋へ着いた時には、雨でずぶ濡れ。真っ暗だった。(HP参照)

丹沢山系は、沢登りも活発である。単独で緊張して沢を登り、山頂で昼食を食べたところで、ホッとし、下山道は気が緩んだのだろう。誤ったと思われる「無名ノ頭」からも登山道はあるが、難コースというHP説明もある。尾根の下りは、同じ方向に尾根が派生しており、ピークを「本間ノ頭」と思い込み下山した場合は、間違いに気がつくのも遅れる。「本間ノ頭からの下りは広い尾根+緩やかな下り」という「地図の先読み」をしていたらもう少し早く気づいたのかもしれない。道迷いはこの「地図の先読み」が大切である。

今回は、沢登りをした帰りの下山である。少しぐらいの沢ぐらい下れるかも？という気持ちが行動をさらに進めさせていたのかもしれない。「戻る勇気が必要ではなく、戻る以外に道はない」という事例であった。